

令和6年度 八王子市立由井第二小学校 学校経営計画 報告

【学校教育目標】 「くふうする子 はげまし合う子 じょうぶになる子」

【目指す学校像】

- (1)「考え工夫する子」が育つ学校
- (2)「自分を大切にする子」が育つ学校
- (3)「人を大切にする子」が育つ学校
- (4)健康・安全にすごせる学校
- (5)地域とともにある学校

中期的目標	中期的方策
(1) 考え工夫することができる児童の育成 (2) 児童の自尊感情、自己肯定感の向上 (3) 児童相互の認め合い (4) 教員、児童の危機管理能力の向上 (5) 地域との持続可能な連携 (6) 地域における小中の一貫した教育の確立	(1) 不断の授業改善 (2) 誰一人取り残さない指導 (3) 互いが認め合える場づくり (4) 一声指導の実施 (5) 地域への情報発信、地域人材の積極的な活用 (6) 由井中との情報共有及び連携事業への積極的参加

【令和6年度の目標と取組の報告】

1 本気で「くふうする子」を育てる

- ① 教育活動全体で必ず工夫する場面を入れる。→授業において思考場面を必ず入れるように指導してきた。実態に合った発問が課題である。
- ② 「工夫する」とはということかを児童に説明する。→全校朝会で全校に伝えた。また、日々教員を通して間接的に児童に伝えることができた。
- ③ 授業の振り返りの場面での評価の観点として「工夫できたか」を入れる。→振り返りでは、活動のと内容の評価を行い、活動の評価において「工夫できたか」を入れることができた。
- ④ 授業では、一人で考える場面と複数で考えを出し合う場面をつくる。→一人で考える自力解決をもとに交流する場面を設け、それぞれの「くふうする力」の育成に努めた。
- ⑤ 自分の考えを理由を添えて説明させる。→校内研究において取り入れ、主に国語科において積極的に実施した。
- ⑥ 児童が主体的に工夫するような題材、教材、資料、問題を工夫する。→問題把握の際に児童が問題を自分事としてとらえることができるような教材や資料を教師が工夫する大切さを伝えてきたが、まだまだ教科書をそのまま活用するだけで、児童が主体的に問題解決を行っていないことが多い。

2 一人一人を大切にす

- ① 全教育活動において、「まとめ」の時間を取り、「できたこと」「分かったこと」を必ず確認する。
→活動の評価のみ(がんばった、話し合っていた等)にならないよう、内容の評価を入れて児童が達成感をもつような指導を行った。
- ② 教員は児童理解を深め、一人一人に寄り添った指導を行う。→本当に児童に寄り添った支援ができていないと感じ、特別支援教育の研修を実施するとともに、授業観察にて支援の在り方について指導した。
- ③ 一人一人の学力の向上に努める。→基礎的知識の理解の時間を授業中や朝学習において実施した。
- ④ いじめ対策委員会、いじめアンケート等により、未然防止、早期発見、早期対応、組織的対応に務める。
→未然防止のために人権教育、道徳教育に力を入れた。早期発見、早期対応のために週1回のいじめ対策委員会及び児童理解夕会を開き、情報交換を活発に行った。
- ⑤ 「八王子市立学校における不登校児童・生徒の出席の取り扱いに関するガイドライン」に則り、児童の社会的自立を念頭に置いた対応を進める。→1, 3, 4年の不登校傾向児童に対しては関係機関と連携をとり、担任を中心に児童に寄り添った対応ができた。6年児童については、組織的な対応ができていない。

3 児童相互が認め合える

- ① 授業等では個人での問題解決の後に必ず互いの考えを交流する場面をつくる。→ほとんどの授業で実施。さらに互いが認め合える意見交換をしたり、よりよい解を求め話し合ったりさせる必要がある。
- ② 行事や授業において、協力して何かを成し遂げるような協働的な学習を行う。→協働的な学習は頻繁に実施できた。皆で行った活動が価値あるものであると思えるような活動を考えていく。
- ③ 道徳教育の充実(重点内容項目として、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」)
→道徳授業地区公開講座では、「親切、思いやり」について保護者も加わり話し合うことができた。
- ④ 互いを励まし合ったり、互いを認め合う声かけなどの発信を促進する。→授業中、活動の後には自然と互いを認める声かけができています。さらに意図的にできるよう促進する。

4 安心してすごせるように

- ① 体育科授業の充実により体力の向上、健康増進を図る。→研修を数回実施したが、さらなる体育科授業の充実を図る。
- ② 防災教育の充実→自分の身を自分で守る避難行動について避難訓練時に指導してきた。さらなる徹底を図る。
- ③ 教員、児童の危機管理能力の向上→主に各担任が行ってきたが、生活指導部による組織的な対応を考えていく必要がある。

5 地域との連携強化

- ① 地域、保護者への丁寧な情報発信→学校全体では Home & School による発信ができた。クラス単位では、学級通信を発行するクラスは丁寧な発信ができていますが、保護者会等での保護者が期待する発信ができていない。
- ② 学校運営協議会を通じ、地域からの人材活用、学校の地域への開放を活発化させる。→地域からの人材活用はできているが、地域への開放の面に課題があり、さらなる地域との連携を図る必要がある。
- ③ 由井中学校及び近隣小学校との連携、情報共有を深め、交流活動において積極的な参加を促す。→小中連携は図れている。

【次年度以降の課題と対応策】

【学習】

1 『授業力向上』 誰一人取り残さない指導を目指す。そのために「**不断の授業改善**」を行う。その手立てとして OJT や校内研修、校内研究にて教師一人一人の授業力向上を図る。

2 『**「くふうする子」の育成**。』 そのために、授業における思考力、判断力、表現力の育成を今以上に図る。総合的な学習の時間の充実。

3 『**図書活動**』を今年度以上に推進する。その手立てとして、年間読書目標の設定、「**すきま読書**」の推進、読書週間の充実を実施し、読書する児童を育成する。

4 『**授業力**』 校内研究は、国語科の文章読解の研究を行う。令和6年度は説明的文章の読解を研究した。それを生かして、7年度は文学的文章の読解の研究を行う。国語の授業力向上とともに、研究を本格的に行い、授業改善の方法を学ぶ。

【心を育てる】

・『**自分も人も大切に**する』 ための授業における手立てを継続する。それとともに、道徳科の授業の底上げを行う。

・『**学校目標「励まし合う」児童の育成**』のために協働的な学習、協力、プラスの声かけなどに重点を置いた指導を行う。

【生活指導】

・『**安心**』 児童が安心できる場を作る。安心できる方法を考える。

・『**あいさつ**』 小中連携における挨拶運動だけでなく、児童から進んで行う挨拶運動を今後も実施する。

・『**特別支援教育**』 特別支援教室だけでなく、所属学級においても特別支援教育を確実に実施。そのための研修会の実施。

・自分で自分の身を守る防災教育の実施。

【地域】

・『**片倉自治会**』 片倉自治会等とのウインウインの関係創設。地域と学校との距離を縮める。

・『**学運協**』 学校運営協議会の改革。「学校のそばに寄り添ってくれる応援団に」

・『**連携**』 小中連携及び幼保小連携の確実な実施。

R5 学校関係者評価（学運協）学期末

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない
【学運協アンケート】 保護者アンケートと同じ内容	1	2	3	4	5
1 学校の経営方針	100%	0%	0%	0%	0%
2 特色ある取組（由井二っ子班活動）	100%	0%	0%	0%	0%
3 由井中学校と合同で行う取組（CC 大作戦等）	100%	0%	0%	0%	0%
4 避難訓練などの安全管理	100%	0%	0%	0%	0%
5 道徳等、自他共の大切さを認め行動できる教育	100%	0%	0%	0%	0%
6 いじめ未然防止、早期発見、早期対応等	100%	0%	0%	0%	0%
7 学校は落ち着いて学習できる雰囲気	25%	62%	13%	0%	0%
8 よりよい学校生活を送れるような取り組み	63%	37%	0%	0%	0%
9 キャリア教育	71%	29%	0%	0%	0%
10 学習環境の整備	75%	25%	0%	0%	0%
11 学校だよりやホームページ等で情報提供	75%	25%	0%	0%	0%
12 地域運営学校、地域とともにある学校づくり	63%	37%	0%	0%	0%